高野の県民活動⑧

CSR誘致の実践

ローソンと県の包括協定の締結

（県と民間の初めての業務提携）

平成19年2月議会大手コンビニのローソンと高知県の「包括的協定」を結ぶように提案しました。

ローソンは「これからのコンビニは地域に密着することが大切、これまでは何事も東京から発信してきたが、各地方に合わせた新たな店作りを成功させたい。」

協定した際の県側のメリットとして、

●企画商品の商談会に県産品を扱う業者を招く。県内業者流通や生産の強化
●県産品の販売や観光情報の発信
●災害時の物資提供
●地域の子供たちの遊び場や託児所などを併設した店舗

といった地域貢献に寄与してもらうというのが私の狙いでした。

協定について前向きな答弁をもらった後、早速、ローソンの中四国の責任者と県の幹部による会議開催を調整し、実施。

それ以後、担当者別に協定内容の議論に6回の会議を開催、その後、10月31日に「経営カリスマ」のローソン本社の新浪剛史社長に県庁にお越し頂き、高知県と「協定」を結ぶことが出来ました。

平成19年10月31日
「経営カリスマ」のローソン本社の新浪剛史社長と県庁にて。

【補　足】

私は、4月の県議選に用いたマニフェストの中に「大手コンビニや大手量販店により本県物産やサービスの販売、流通の拡大、強化」を入れており、そのマニフェストの1つです。

その成果は、

●県の広報誌や観光情報等の設置
●県警との連携による犯罪防止対策
●子供たちへ傘の無料貸出し
●災害時の物資調達の協力
●県産品を作った商品の開発と販売

（例）20年3月～中四国エリアのローソンでみょうがを使い10商品を企画・販売、ナスを使った弁当・全国版のギフトカタログに掲載。

その後、これがモデルとなり某コンビニ等の包括提携が進んでいます。

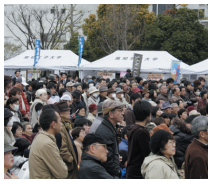
県庁にて協定

高野の県民活動⑨

CHANGE 学生国会in高知

平成20年、11月から「何かやろう。」と普段から親しくしている高知の3大学の学生を集めて話し合いから始まり、30回以上の会議を繰り返しました。

高知大学、高知女子大学、高知工科大学そして、県内高校生と実行委員の輪は広がりました。企画は、学生が県と市の行政最高権限者に対して自分達が作ったマニフェストを学生議会を設置して、来賓と来場者に賛否を問い、可決されれば、知事、市長、国会議員にそのまま学生のマニフェストを要望しようということになりました。



みんな本当に高知が大好きでいてくれる学生さん達です。

タイトなスケジュールの中、大体集まりやすい時間の20時くらい。それから午前0時頃に終わるのは当たり前。遅いときは朝方まで打合せを積み重ねてきました。

学生たちは、自発的に高校の通学路のビラ配りや、ポスター貼り、各協力企業や団体との調整を実行。

この間、学生達は様々な壁やハードルにぶち当たりました。その度に協賛企業や団体そしてブースの出展者の皆さんなどなど、多くの県内の大人の皆さんに支えられてやってきました。

そんな準備に追われる中、サプライズ。

大物ゲストに内麻生太郎総理が来てくれることになり、学生達は嬉しいだけの驚きどころではなく、その瞬間から重圧がかかりました。

政治系テレビ番組にもまず出ることの無い、本物の総理が学生のマニフェストに対して応えてくれる！そんな機会は前代未聞。

麻生総理は、自らこのイベントの企画に賛同してくれて自らが参加を決めてくれたそうです。

総理から「こんなイベント、他にはない。みんな学生達が堂々としていて、質問ややり取りも良かったし、高校生の挨拶も良かった」と大満足してくれました。

今回のイベントは、混乱を避けるために数日前にも総理が来られる事を告知は出来ませんでしたが、会場は大盛況。

この企画運営にご尽力を頂き、関係をしてくれた皆様、ありがとうございました。

寒い中、会場に足を運んでくれた大勢の皆様ありがとうございました。

全く出番は無いけど、一生懸命に主体的に手伝ってくれた裏方の学生の皆さん、ありがとう。

そして、麻生総理。

私は、テレビでもあれほど笑顔の総理を見たことがありません。

学生の意気を十二分に受け取ってくれてありがとうございました。

総理の「自分たちの住んでいる所、生まれた所、骨を埋めても良いと思う所を考えることは正しい。これをしなくなったら終わり。」

と言う、コメントに特に感謝です。

そして、何より、昨年の11月から今まで一緒に苦労した学生の執行部、実行委員の皆さん。皆さんにとって辛いこともあっただろうし、私も本気なぶん思い切り向き合い、配慮のない言動があったかも知れません。

よくやり遂げてくれました。すごいです。本当にありがとう。

この学生達となら、あと何回でも、協力して一緒に高知を盛り上げたいと思いました。

私にとっても本当に忘れられない良い経験になりました。

※この大イベントを一過的にするつもりはありません。すでに学生活動が地域の活性化や地域貢献に活かせるよう、次に向けて行動をスタートしています。乞うご期待ください。